

韓国語と日本語

韓国語と日本語は、単語や文法など似ている点が多いとよく言われています。実際にどれくらい似ているのか、比べてみましょう。



同じ漢字語がとても多い

道路、無理、三角などは日本語でも韓国語でも同じ漢字を使います。発音も、ドロ、ムリ、サンカクと日本語とほとんど同じです。

韓国語

漢字語

日本語

도로

——

道路

——

どうろ

*発音はドロ [DORO]

무리

——

無理

——

むり

*発音はムリ [MURI]

삼각

——

三角

——

さんかく

*発音はサンカク [SANKAK]

漢字語とは、漢字で表記できることばのことです。
韓国語の単語も日本語の単語も、半分以上は漢字語だと言われています。



文のしくみがよく似ている

韓国語と日本語は語順がほぼ同じなので
韓国語のいくつかの単語と、助詞を覚えれば、簡単に文章が
作れるようになります。



日本語の単語と助詞を韓国語と入れ替えただけで、
韓国の文章が完成しました。
語順は全く一緒なので、簡単ですね！

文字についてもっと詳しく！

日本語の「かな（仮名）」を、ハングルとローマ字でそれぞれ表してみるところになります。

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| ひらがな | か | な | | |
| ハングル | 가 | 나 | | |
| ローマ字 | K | A | N | A |

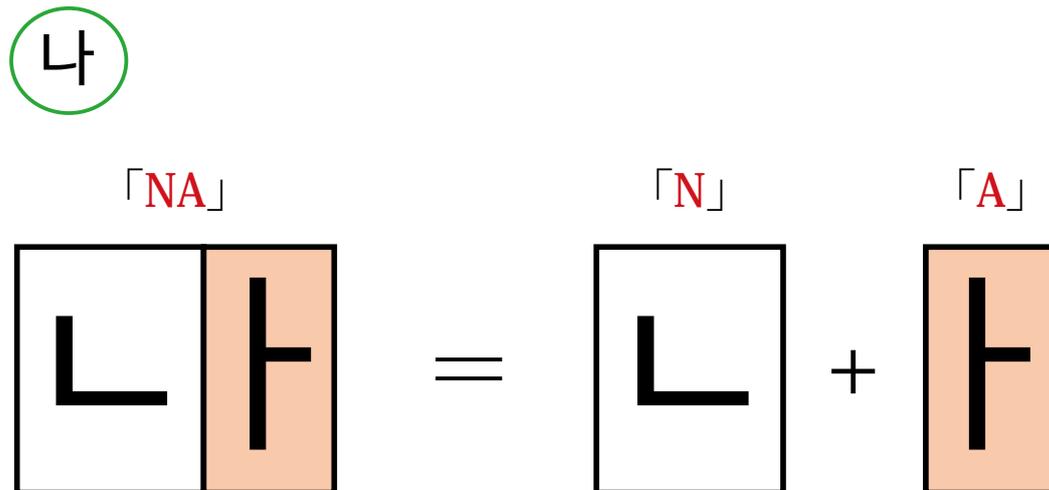
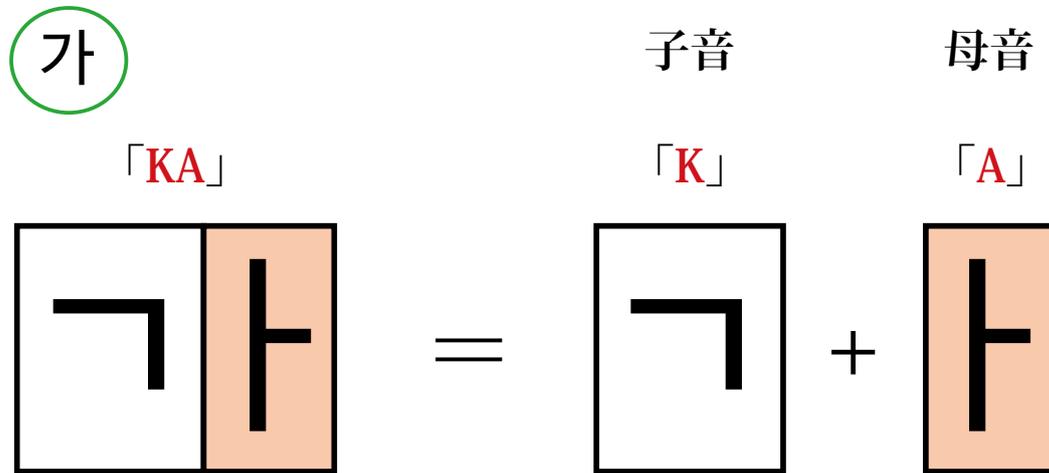
ハングルもひらがなも、それぞれ2文字で「かな」という音を表しています。

ひらがなは、子音と母音を区別せず、ひとまとまりで表す文字です。

ひらがなはこれ以上分解できませんが、ハングルはローマ字と同じように、さらに子音と母音に分解できます。

つまり、ハングルはひとまとまりずつの文字としても成立し、また、アルファベットのように、別々に分解することも出来る変幻自在の文字なのです。

ハンゲルの「가」「나」は、それぞれ、さらに次のように分解することができます。



文章で説明すると難しく感じますが、一度覚えてしまえば簡単です。
 それでは実際使われる文字から、ハンゲルの組み合わせを見てみましょう。

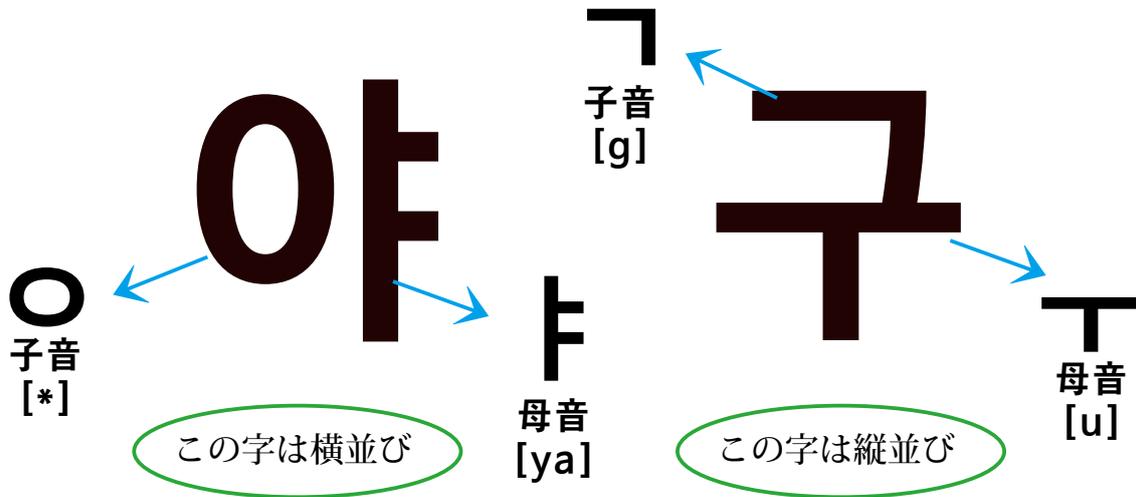
ハンゲルの構造

日本語の場合「ア、イ、ウ、エ、オ」の母音を除いた文字はどれも、「カ ka」、「サ sa」、「タ ta」などのように、子音と母音の組み合わせから成っています。ただし、カタカナやひらがなの場合、文字の上では子音（音素）と母音（音素）を分けることができません。

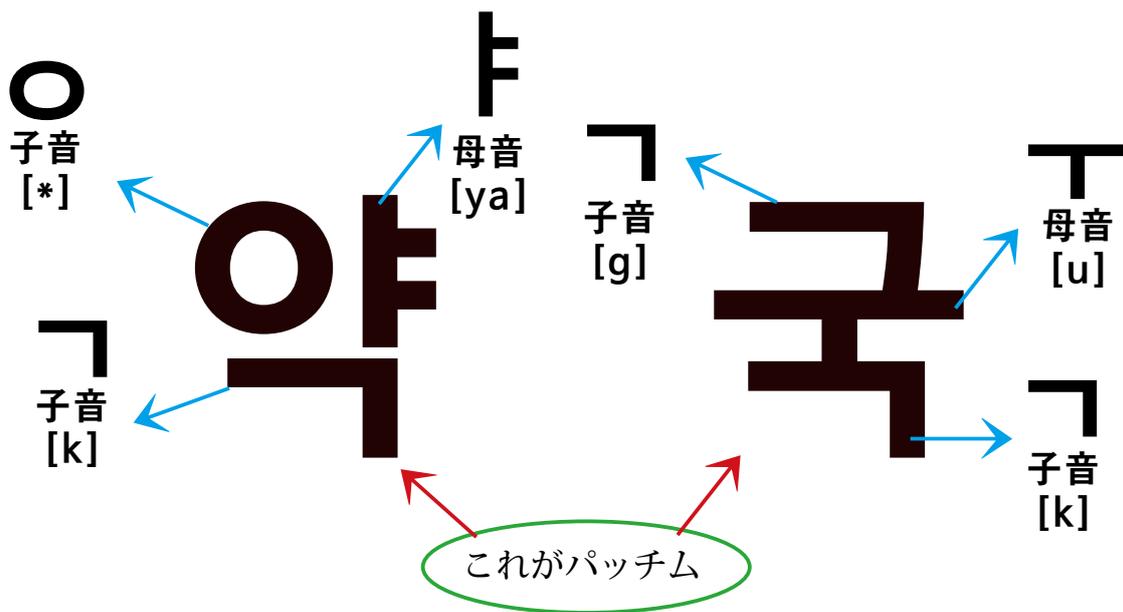
ハンゲルの「**아** a」、「**가** ka」、「**사** sa」、「**다** ta」は左に子音を表す「**ㅇ**」、「**ㄱ**」、「**ㅅ**」、「**ㄷ**」という文字と右に母音を表す「**ㅏ**」の文字の組み合わせから成っています。つまり、ハンゲルはローマ字のように子音と母音のパーツを組み合わせて一つひとつの文字を作っていくシステムなのです。

ハンゲルの文字の組み合わせには①子音 + 母音と②子音 + 母音 + 子音の2つがあります。さらに、それらは母音字母が子音字母の右にくるものと、下にくるものが決まっており、「**ㅏ** , **ㅑ** , **ㅓ** , **ㅕ** , **ㅗ** , **ㅛ**」などの母音が中声のときは初音を左に、中声を右に書きます。また、「**ㅜ** , **ㅠ** , **ㅡ** , **ㅝ** , **ㅞ**」のときは、初音を上に、中声を下に書きます。

①子音 + 母音



①子音 + 母音 + 子音



文字の最初の子音を「初音」、次の母音を「中声」、そして母音の次に来る子音を「終声」といいます。また、「終声」のことを「パッチム 받침」ともいいます。パッチムには「下敷き、支え」という意味があります。

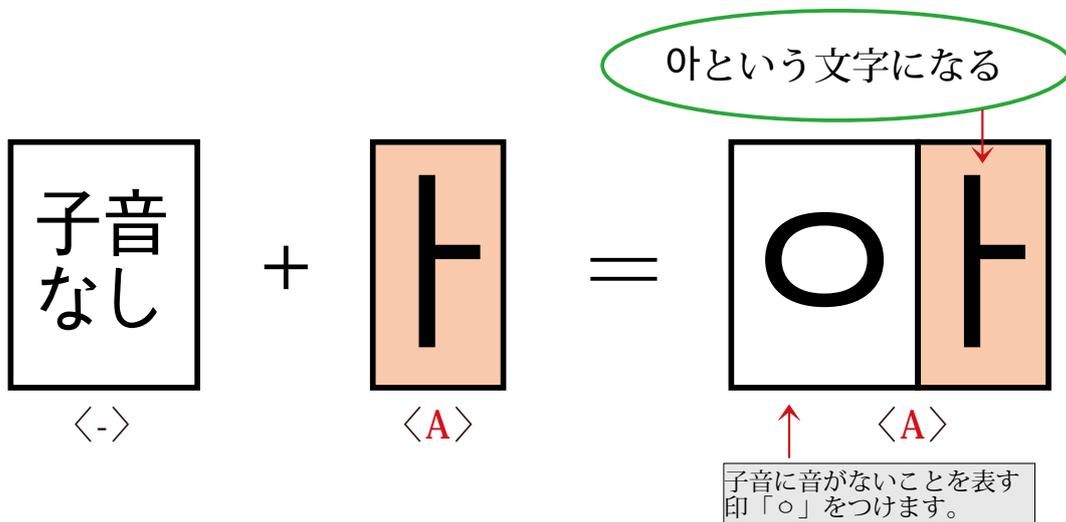
ハンゲルの組み合わせ

ハンゲルの子音と母音の組み合わせには3つの決まった形があります。母音は○と組み合わせればそのまま文字として使えますが、子音は母音と組み合わせずにはじめて文字として機能します。



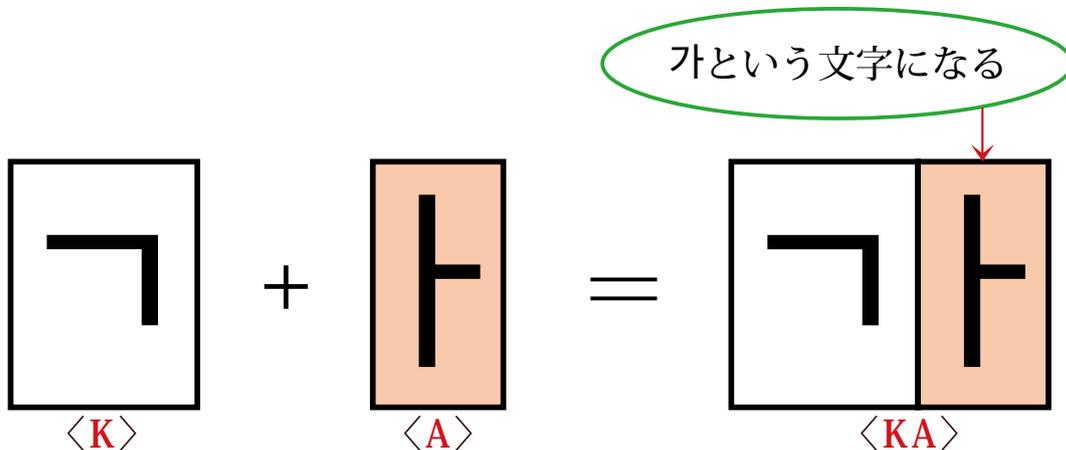
①母音だけの文字

日本語の「あ」をハンゲルで表してみます。



②子音と母音を組み合わせた文字

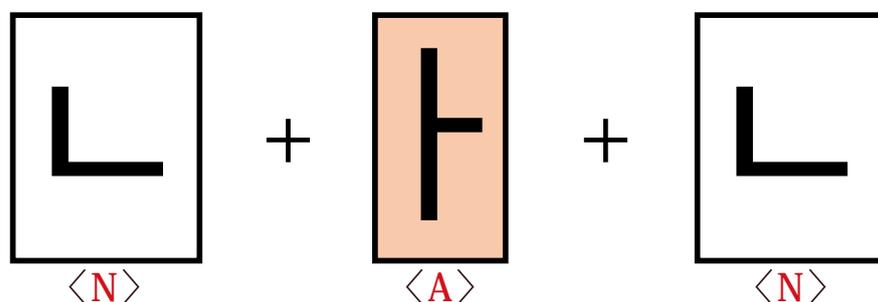
日本語の「か」をハンゲルで表してみます。



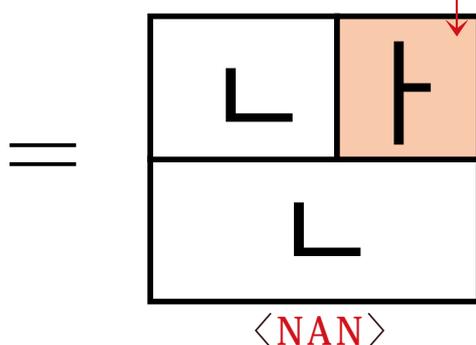


③子音と母音にさらに子音を組み合わせた文字

日本語の「なん」をハングルで表してみます。



난という文字になる



子音 + 母音 + 子音タイプ
の文字の場合、
最後に組み合わせる
子音は必ず下につ
きます。



「ハングル」について

ハングルは言語の名称ではなく、「ひらがな」や「アルファベット」などと同じく文字の名称です。ハングルは朝鮮王朝第4代の王、世宗大王によって創られました。

一見何かの暗号のようなハングルですが、誰にでも読み書きできるように合理的にできています。

ハングルは10の母音と19の子音、11の複合母音の組み合わせだけで構成される表音文字です。

文字を見て発音が連想できるので、仕組みさえ理解すれば、暗号が解読されるようにスラスラ読めるようになるから、不思議です。